TOHOKU EPO通信

[エポ]

東北環境パートナーシップオフィス

vol. 21

福島県南会津で実施されたGreenGiftプロジェクト「森で遊ぼう!自然豊かな南会津で!」

Contents

- 特集「東北の地域に学ぶ、森林資源活用の可能性」
- ECO&復興支援グッズ
- 東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

東北の地域に学ぶ、森林資源活用の可能性

日本では古くから、人々が身近な森林と深く関わり合いながら暮らしてきました。人手を加えない自然な森林、すなわち原生林のような「森」あるいは「杜」に人智を超えた偉大な力を見出して畏怖・崇拝し、一方で「林」を、住居の建材や薪炭などの燃料、肥料や飼料を得るために木を生やしておく場所として管理してきました。このような自然環境に人手が入った地域を「里山」と呼び、特に薪炭用に利用された里山は「後山（うしろやま）」とも呼ばれます。

東日本大震災以降、地域で循環するエネルギーに関心が高まる中、地域資源を活用したまちづくりの一環で「森林エネルギー」が注目されています。東北地方は総土地面積に占める森林面積の割合が約7割と、森林資源が豊富な地域です。そこで、東北の活用事例について、EPO東北がヒアリングを行った2つの事例をご紹介します。

■目指せ「薪ストーブ利用世界一！」（岩手県西和賀町）

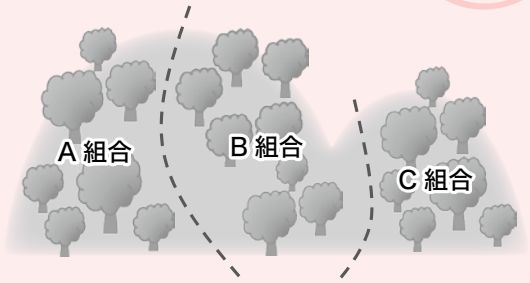
岩手県南西部に位置する西和賀町は、2005（平成17）年に旧湯田町と旧沢内村が合併し誕生しました。町域の9割を森林が占める森林資源の豊かな地域です。かつては林業を主要産業に栄え、生活の中でも森林資源を活かしながら暮らしてきましたが、時代と共にだんだんと林業が衰退していきました。そうした中で町では地域の資源である森林の有効利用を進めようと、薪ストーブの利用推進に着目しました。2009（平成21）年度実施のアンケート調査によると、町内で薪ストーブを利用しているのは3割で、「かつて利用していた世帯」は5割もあったそうです。以降、町は森林組合と協力して薪割り機の整備や薪供給の仕組みづくりを行うなど、木質バイオマスエネルギー導入に向けての取組を継続してきました。現在は環境配慮の観点からも薪ストーブ利用を呼びかけ、「薪ストーブ利用世界一」を目標に掲げています。

西和賀町には森林活用に関する伝統の仕組みが今も受け継がれています。それは、「山分け」と呼ばれ、「薪炭共用林野」を活用し、各集落の住民が協力して山の資源を公平に配分し利用する仕組みです。薪炭共用林野は、自家用の薪や炭の原木採取のためであれば、地元住民の国有林の利用が認められる制度の1つです。山分けに参加できるのは薪炭共用林組合として認められている集落のみで、町には17の組合があります。

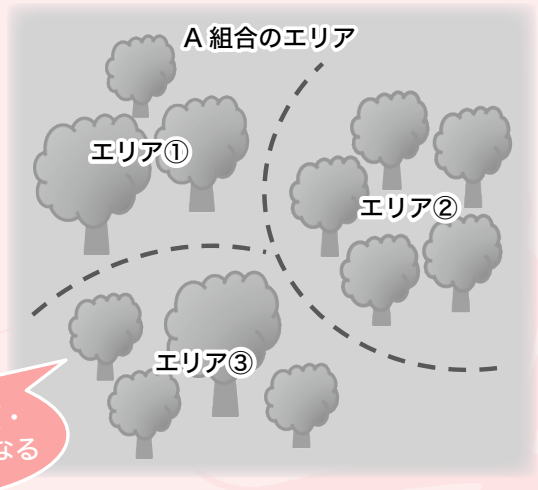
各家庭で使う木を準備するため、春先になると組合ごとに割り当てられたエリアで、木を山からおろす運搬車の通り道を皆で協力して作ります。誰がどのエリアの木をもらうか組合員の割り当ては、エリアによって木の種類、太さ、本数などが少しずつ異なるので、公平を期するためにくじ引きが行われます。自分の割り当てエリアの木に目印をつけて作業は終了です。割り当てられた木の伐り出し作業は各々個人で行うことになっていますが、高齢などで作業が難しい組合員の分は他の組合員が助け合って作業を代行しています。この伝統である「山分け」は、山を荒らさずに薪を安定的に入手する仕組みであると共に、地域をつなぐ仕組みでもあります。

ゆるやかに薪ストーブ利用者は増えているとのことですが、西和賀町ではさらなる普及と、薪を利用した新たな「西和賀ブランド」創出に向けて奮闘中です。

「山分け」のイメージ



①各組合ごとに国有林のエリアを割り当て



②各組合員に行き渡るようエリアを分け、各自の割り当ては公平にくじで決める。

■森の恵みが循環する町（山形県最上町）

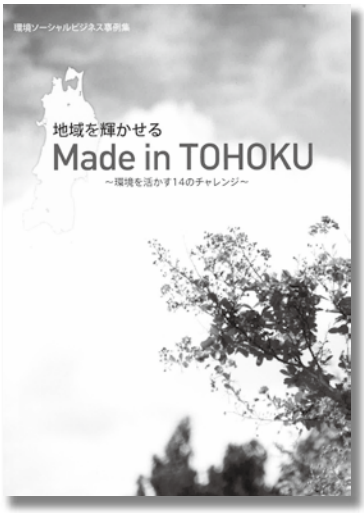
山形県北東部に位置する最上町は、町の大部分が奥羽山脈に属する山岳・丘陵地帯であり、町域の8割以上を森林が占める自然豊かな地域です。かつては多くの人が山仕事で生計を立て、薪でご飯を炊き、風呂に入り、囲炉裏を囲む、食もエネルギーも自給自足する生活文化を育んでいました。しかし生活様式が変化し、山間地域では過疎化が進み、限界集落と呼ばれる地域も出てきました。最上町ではもう一度、森の力でエネルギーの自立する町になることを目指して、森林の適正管理、間伐材の効率的な生産と利用、そして地域循環型社会システム確立に向けたまちづくりに取り組んでいます。

荒廃が進む森林で育ちの悪い木を伐採し、的確な手入れをすることで良い木が育つ健康な森へと再生させ、林産業を守り、さらに若者の就業の場を作り出しています。そして、間伐材や林地残材は総合福祉施設などの公共施設で冷暖房・給湯・融雪のためにエネルギーとして利活用しています。地域全体で入口から出口までを完結させる循環の仕組みです。次世代を育てるために、伐採現場やチップ工場の見学を行い、子ども達の環境教育にも取り組んでいます。

国内初の試みにも注目したいと思います。2015（平成27）年4月より、林野庁山形森林管理署と最上町木質バイオマスエネルギー利用協議会の間で、最上町内の国有林を地域共同の木質バイオマス燃料として活用する契約が締結されました。この契約締結により、約150ha の天然林が広がる「菅ノ沢国有林」で、毎年5haずつ立ち木が伐採され、燃料として使われることになりました。これにより、町はエネルギー源の安定的な確保、山形森林管理署にとっては国有林の適正管理につながります。山の資源を活かした、環境と経済が両立する持続可能な地域づくりの今後に期待が高まります。

取材協力：岩手県西和賀町、やまがた自然エネルギー株式会社
参考ウェブサイト：林野庁、環境省、国土交通省、私の森
参考冊子：森のある暮らし

冊子「環境ソーシャルビジネス事例集　地域を輝かせるMade in TOHOKU～環境を活かす14のチャレンジ」が完成



東北の環境ソーシャルビジネス14事例を集め、冊子にとりまとめました。

環境省事業「環境NPO等ビジネスモデル策定事業」で採択された東北のプロジェクトの、誕生秘話やその後についてレポートを掲載しています。また、東日本大震災で大きな被害を受けた地域で誕生したプロジェクトや、EPO東北スタッフがヒアリングの中で見つけた目からウロコのみちのく事例もご紹介しています。

冊子は無料で配布しております。お求めの方は、EPO東北までお問い合わせください。郵送をご希望の方は、送料をご負担くださいますようお願いいたします。また、在庫に限りがございますので、数部ご入用の場合は事務局へご相談ください。

※EPO東北ウェブサイトからPDFデータをダウンロードできます。

ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）

1 スイーツエコたわし

宮城県の沿岸部、石巻市・名取市の仮設住宅に暮らす女性達が編んだ本物のドーナツそっくりなエコたわしは、プチギフトに最適と人気です。大切なゲストを、世界にたった一つだけの手づくりギフトでお迎えしませんか？ ウエディングやお祝いのお集りの用途にご利用の場合は、製作者さんからのひとことメッセージに替えて、お祝いの直筆メッセージを添えさせていただくオーダーサービスも承っています。

問い合せ先：磯しぎ堂
東京都国分寺市光町1-38-20-401
TEL：042-505-7658
FAX：042-505-7659
Email：info@isoshigi.com
価格 450円

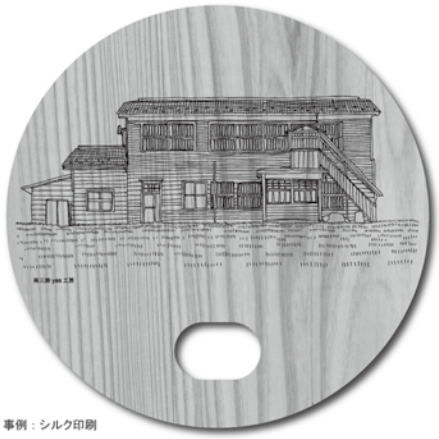
http://isoshigi.com

2 杉うちわ

仰ぐとほのかに杉の香りがするうちわが、夏を涼しく演出します。焼印やシルク印刷で、オリジナルの名入れをすることが可能です。当社では、国産木材を活用した商品を作ることで日本の森林保全に貢献したいと考えています。2012年3月には宮城県南三陸町に工場を設立しました。このうちわも地域の杉を使い、南三陸町で袋入れのセットを行っています。こうして仕事を作ることが、微力ながら復興支援を後押ししています。

問い合せ先：フロンティアジャパン株式会社
東京都江東区森下3-12-5
TEL：03-5669-0990
FAX：03-5669-0991
Email：info@eco-pro.ne.jp
価格 190円

http://www.eco-pro.ne.jp/


事例：シルク印刷

3 大槌刺し子ポロシャツ（かもめ）

白と水色の刺し子糸で一目一目、丁寧に刺し子を施し、大槌の鳥・かもめが大空へと飛び立つデザインを描きました。通気性がよく、やさしい肌触りで、夏の暑い日差しの下でも快適にお召しいただけます。サイズは男女兼用SS・S・Mサイズの3サイズ展開。スリムなシルエットで、お出かけにもぴったりです。

問い合せ先：認定NPO法人テラ・ルネッサンス 大槌復興刺し子プロジェクト
〒028-1121　岩手県上閉伊郡大槌町小鎚第26地割字花輪田128-4
TEL/FAX：0193-55-5368
Email：info.otsuchi.sashiko@gmail.com
価格 5,200円

http://tomotsuna.jp/

白神山地の気候の自然現象は、日本のセンサー

世界遺産白神山地は、日本海や偏西風の風の影響を受けてきた広葉樹の森です。アジアにおける開発が自然に与える影響を知る森です。この森で自然の豊かな恵みと変化を体験を通して学んでいます

白神自然学校一ツ森校は、世界遺産白神山地の山・川・海の自然のフィールドを創造的に活用した自然体験の活動を実施する自然学校です。また、自然体験・野外体験の環境教育のリーダーを養成する人材育成の為の養成講座も実施しています 1993 年に発足し今年で 12 年になりました。この 12 年間、全国から白神山地を訪れた多くの子供達や大人の方々を受け入れてきました。インターシップの受け入れや世界の学生も受け入れています。ここ2年前からは、地元のお母さん達と共に、農家レストラン「しらかみ」を立ち上げ、白神山地から採れた山菜を使った地元の郷土料理を提供もしています。これは食育にもつながっています。また、地元の津軽森林管理署と協定を結んだ「白神自然学校遊々の森」があり、林業体験ができるようになっています。学校の近くのブナ林の中には、昔のマタギが狩猟場として、使っていたマタギ小屋があり、その周りには青池があり、子ども達や大人のマタギの追体験ができる場として大人気です。

東北6県 EPOトピックス 青　森

NPO法人 白神自然学校一ツ森校
●〒038-2723　青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88-2
●TEL：0173-82-7057
●FAX：0173-82-0015
●Email：school@shirakami.gr.jp
●HP：http://school.shirakami.gr.jp/

最近は、白神自然学校の研究機関として、「津軽半島環境研究センター」を五所川原市の廃校に設けて、地球温暖化や気候変動による白神山地や自然災害に与える影響調査を、昨年から初めています。また、地域の課題でもある過疎化・高齢化・少子化・若者不足等の地域の課題解決にも、取り組み白神山地の里を守る活動も展開しています。

市民の手で発電所が船出 一関市民パワー発電所事業化検討地域協議会

『この船には熱いパワーを持った乗組員が乗っています（会長 佐藤直子）』引き船、押し船、前後の人達とのつながりで前進しながら事業を産みます

●見学者がたくさん訪れる市民発電所

一関市民なのはなソーラー１号発電所が昨年５月の発電所作り体験会に集まった市民の手で完成。８月までに３つの発電所が国道 456 と 284 沿いで船出。協議会が会社の登記､設計･施工、融資募集などをコーディネート。資金・技術に市民の力を集めて事業化を検討する最初の事例です。手作り野だて小型太陽光には「市民の手で出来ることを見てもらおう」というモデルハウス的な意味があります。

●仕事の創出から地域経済の活性化へ

低圧連系での事業化には、メガソーラー（1000kW）１個より 50kW 未満 20 個に可能性を見るからです。発電所を軸に地域産品の販売所、里山カフェ、それらを巡るエコツアーなど、発電・売電以外の事業化に市民力を集めることも。「菜エネ畑（発電所を畑にする“逆ソーラーシェアリング”）」「ロケットストーブ・パーティ（バイオマス利用の体験）」などを仕掛けながら、小水力や温泉熱利用の構想も練ります。

●県南・一関でつながる市民発電所の輪

先を行く、県北「野田村だらすこ市民共同発電所」（被災した平均年齢 72 歳の５人のお父さん）、「静岡市民発電所」（一関高専１期 伊藤博文さん）の支援があり､「NPO 環境パートナーシップいわて」の後押しがあり、市民発電所は県全域へと広がります。

東北6県 EPOトピックス 岩　手

一関市民パワー発電所事業化検討地域協議会
●〒029-0211　岩手県一関市弥栄字一ノ沢70-4
●TEL/FAX：0191-21-4862
●Email：kamikami@icn-net.ne.jp

電気・暖房・ガソリン代として地域から流出するお金を、再生可能エネルギーでローカルに循環させる、電力・熱・交通分野のエネルギー自給（地域内での価値創造）が最大の動機づけです。

フードバンク 全国の食品ロスを活用し東北各地の支援につなげる

現状では廃棄される事が多い、賞味期限間近や規格外の食品を企業や農家から寄付して頂き、それを地域福祉のために福祉施設や生活支援団体へ再寄贈。

日本では国内で暮らす人々が1年間に必要な食品として、毎年8,000万トン以上の食品を、生産したり輸入したりしています。その中で、500万～800万トンの食品が、「まだ食べられる状態」で廃棄されていると推計されています。地球資源の枯渇への危機感が世界的に高まっている中、このもったいない状態の食品についても、先進国を中心に「食品ロス問題」としてその解決が重要視されており、日本でも行政、企業、市民の垣根を越えた様々な対策や運動が行われつつあります。しかしながら、環境問題だけでは無く貧困問題も社会課題・複合化する中で、飽食の日本でも一日3食が困難な家庭や餓死者まで出てしまっている状況です。

フードバンクは、もったいない食品を、それを必要とする方へ橋渡しすることで、その地域での環境問題と福祉課題を両面からサポートする活動です。福祉施設への提供だけでなく、震災以降は被災地（者）支援も含めて事業展開を行っています。

環境問題も貧困問題も、元をたどれば人や社会の営みの中で、他人や地域にマイナスの影響を与える事柄が蓄積することで表面化しています。まだ食べられる状態で廃棄される食品のうち、約半数の400万トンが、日本の各家庭から1年間に出ている「まだ食べられる状態の食品量」と言われています。環境や福祉にやさしい社会を創るために、ご自身の家庭から残さず食べきる運動を始めて見ませんか？ふうどばんく東北AGAINでは個人からの食品の寄付も受け付けています。

東北6県 EPOトピックス 宮　城

NPO法人 ふうどばんく東北AGAIN
●〒981-1222　宮城県名取市上余田千刈田1019-1
●TEL：070-6494-7044
●FAX：022-774-1410
●Email：info@foodbank.or.jp
●Facebook：https://www.facebook.com/foodbank.tohoku.again

八郎湖と草木谷と人を結ぶ谷津田再生事業

小学生や地域住民と協働で石川理紀之助ゆかりの地「草木谷」で里山保全と八郎湖の環境再生活動

潟上市昭和豊川山田地区にある草木谷は、「聖農・石川理紀之助」が、明治時代に貧農救済のため自らが貧農体験を実践した場所です。ここは八郎湖の上流部に位置し、水源地としての機能を担っていましたが、20年以上も耕作放棄されすっかり荒廃していました。平成18年、田んぼを復元して八郎湖の水源地としての環境をよみがえらせようと、山田地区住民が「草木谷を守る会」を設立、翌年から地元小学生とともに、昔ながらの農法で農作業を体験する「田んぼの学校」をスタートさせました。自然にふれて農業を学びながら、水の大切さ、食べ物の大切さを学ぼうと、田植えから草取り、稲刈り、脱穀まで一年を通した農作業に取り組んでいます。

最初は小学生のみの取り組みでしたが、平成21年からは「大人バージョンとして、有機農法で酒米栽培も始めました。参加者は地域内外の住民や学生などで年令は様々です。収穫した酒米は地元の蔵元で醸造し、純米吟醸酒「草木谷のしぶき」の名称で県内の商業施設で販売しています。また、刈り取り後の稲わらを秋田市大森山動物園へゾウのエサとして提供し、ゾウのフンは堆肥としていただいています。「循環型農業モデル」としての一役を担っているともいえます。

これまでに5000人を超える人々から参加をいただきました。

これからも草木谷ならではの自然にふれた農業体験型学習を活かし、さらなる活気に満ちた地域づくりを目指していきたいと思います。

東北6県 EPOトピックス 秋　田

草木谷を守る会
●〒018-1401　秋田県潟上市昭和大久保字堤の上61
●TEL：090-2988-0240
●FAX：018-877-2433
●Email：kusakidani.mamorukai@gmail.com
●HP：http://kusakidani.net

「みちのく薪びとまつり」で掴んだ地域コミュニテイ再生の手ごたえ

あの手この手で「無関心」を排除し、「1人では生きていけない」を理解した「地域コミュニティ」が機能する自立した町が理想！

鶴岡市三瀬地区は人口約 1500 人、戸数約 480 戸の小さな地域です。山、川、里、海に囲まれた豊かな自然が特色です。しかし、住みやすいこの地域も昨今の人口減の流れには逆らえず 20 年後には 800 人を割り、町の機能が失われるとの試算があります。現在、三瀬地区では様々な切り口の事業を実施し、人口減を食い止めるとともに住民同士が関わり合いながらより楽しく暮らせる環境の創出を目指しております。

平成26年10月、2日間にわたり実施された「みちのく薪びとまつり」は「薪」を切り口にしたイベントです。東北中から約 150 名もの人があつまり、薪の楽しみ方や薪の活用方法に関する講演、薪アートの作成、薪ストーブの展示、東北の各地域の薪に関する取組の発表、三瀬地区内の山の散策、薪割体験など薪をキーワードに様々な催しが実施されました。特に夜に実施された懇親会では各県の地酒を飲みながら地域食材を使用した郷土料理をみんなで楽しみ有意義な時間となりました。

豊富にある森林資源の活用を考える人、自然エネルギーという視点で薪を考える人、地域にたくさんのお客さんがくるという観光視点でイベントに関わる人など様々な観点で地域の人も大勢参加し、住民同士の関わりが減り、「無関心」が蔓延する地域の問題解決の手がかりとなりました。

今回は「薪」を切り口に大勢の方々の協力を得ながらイベントを実施し成果を得ました。今後も様々な切り口で住民が地域コミュニティに積極的に関われるような事業を実施し、楽しく暮らせる地域目指して活動していきたいと思います。

東北6県 EPOトピックス 山　形

鶴岡市三瀬地区自治会
●〒999-7463　山形県鶴岡市三瀬字堅田138-8
●TEL：0235-73-2001
●FAX：0235-73-3016
●Email：sanzecc@bz03.plala.or.jp
●HP：http://sanze.jp/

福島県いわき市三和町、若者たちと行う森づくり活動

若者たちと一緒に、森林と、木の持つ可能性を追求しています

フクシマ環境未来基地は東日本大震災の直後に若者たちにより設立されました。当初は沿岸部の家屋の片づけなどの災害ボランティア活動を行っていましたが、より長期的に地域に根差した環境保全活動を行う計画をまとめ、平成25年に事務所をいわき市三和町下三坂（中山間地）に移転しました。いわき市三和町はいわき市の水源の森ともいえる豊かな森林を有していますが、高齢化と過疎化も進んでいます。この豊かな森林を守っていくことに少しでも貢献したいと考え、若者たちと森づくりボランティア活動を行っています。

里山の保全活動を通じて市内外から多くの若者が訪れるようになり、森林だけでなく地域も元気になることを願って活動しています。ですので、整備作業だけでなく地元のお年寄りとの交流の機会もつくっています。参加する若者たちは地域のお年寄りからたくさんのことを学ぶ機会にもなっています。平成26年度は年間延べ200人を超える人たちが活動に参加してくださいました。

その他の活動としては、いわき市に避難をされている方々に向けた「木工クラフト」交流会も定期的に開催しています。避難生活を送る方々は自然のものに触れる機会が減っているので木工を通じて少しでも木に触れ、また集まった人たちが楽しく交流できる機会をつくっています。

今年の活動計画の目玉は、事務所の横のスペースに「木工クラフト工房」を建てることです。地元の間伐材などを使い、おしゃれな楽しい工房を作りたいと考えています。それにより、森林ボランティア活動だけでなく、クラフトを作ってみたいという人も三和町に訪れるようになるよう機会を広げていきます。

東北6県 EPOトピックス 福　島

フクシマ環境未来基地
●〒970-1376　いわき市三和町下三坂永久保40
●TEL/FAX：0246-85-2777
●Email：fukushima@conservation-corps.jp
●HP：http://fukushima-c-c.jimdo.com/

＊EPO東北オフィス利用案内

◆EPO東北のミーティングルームのご案内

環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。
事務局までご相談ください。

●開館日／月～金　●利用時間／10：00～18：00　●利用人数／12名まで

◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。
お気軽にお立ち寄りください。チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。

＊Web-Siteのご案内

◆お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧

◆随　時　更　新：お知らせ、活動報告、日記

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！
お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。

＊EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
ECOリパブリック白神	http://shirakamifund.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
あきた地球環境会議	http://www.ceeakita.org/
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際的研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

メールマガジン登録者募集中!!

発行：第２週と第４週の毎月２回

登録：無料

内　　容：環境助成金情報、環境イベント情報、EPO東北の活動情報や環境にまつわるお知らせ

登録方法：EPO東北のウェブサイトよりご登録いただけます。

表紙写真について

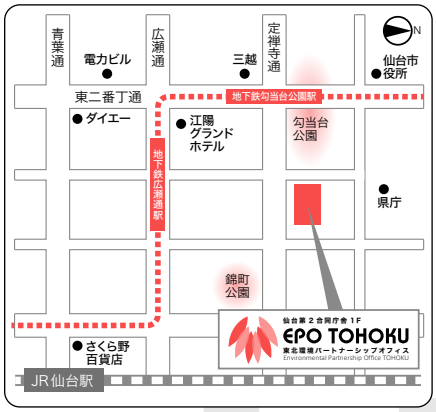
福島県では、NPO法人森の遊学舎が主催し、南会津にて親子で楽しめる環境イベントを実施しました。EPO東北はコーディネート協力をしています。

環境イベント告知を掲載します

環境イベントを企画している皆さま、ぜひEPO東北事務局まで情報をお寄せください。ご提供いただいた催事情報はEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。

また、チラシを持参・ご郵送いただいた場合はEPO東北オフィスに設置いたします。

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町３丁目2–23　仙台第２合同庁舎1F
TEL：022-290-7179　FAX：022-290-7181
E-mai:info@epo-tohoku.jp　URL:http://www.epo-tohoku.jp

勤務時間：月曜日～金曜日【9：30～18：00】
休　　日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始

VEGETABLE OIL INK

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行日：2015年8月